2018年度海外巡検（フランス・パリ巡検）に関する報告と実施に至るまでの経緯の説明

内田　順文

本学地理・環境コース　教授

はじめに

国士舘大学地理学教室では、2001年以来、ほぼ3年に1回のペースで海外巡検を実施し、定期的な行事として定着させてきた。しかしながら、第5回目となった2014年度のハワイ巡検では実施担当教員の努力にもかかわらず参加希望者が2名しか集まらず、結果的に実施中止となり、さらに2017年度の第6回目（台湾巡検）は、前回の催行中止をふまえて事前に学生たちからの希望を聞き、実施時期を希望が多かった春休み中としたうえ参加費用も極力安価になるよう努力したにもかかわらず、応募者はわずか2名で、またしても催行不可能となってしまった。参考までに、過去6回の海外巡検の概要を示したものが表1である。

結果的に2回連続（8年間）で海外巡検が実施されないことになり、このままでは今後の海外巡検の実施が危ぶまれる状況となった。その原因は単純に海外巡検の需要が縮小したことに求めることも可能だが、一方不思議なことにオープンキャンパスやAO入試・推薦入試の面接などでは「貴学の海外巡検に興味がある」「入学したら海外巡検に参加したい」という声を毎年よく聞くのも事実であり、この10年あまりで海外巡検参加希望者が激減した原因を特定することは難しかった。そこで同年11月、地理・環境コースの1年から4年の全学生に対し、緊急に「国士舘大学地理学教室主宰の海外巡検に関するアンケート調査」を実施し、2017年度の海外巡検（台湾巡検）に参加を希望しなかった理由を明らかにし、その対応策を考えることになった。

「海外巡検に関するアンケート調査」の集計結果

この時点で、同年度中に台湾巡検を催行するチャンスもまだ残されていたため、アンケート調査の準備と実施にかける時間的余裕がほとんどなく、結果として地理・環境コースの在籍者数252名中109名の回答を得、43.3％と必ずしも高い回答率は得られなかったが、結果を検討していくと、教室に対する批判的な意見も含

表1　第1～6回の海外巡検の概要

	実施日程	日程	巡検国	おもな巡検先	募集時の参加費用	参加学生数
第1回	2001年9月3～9日	6泊7日	フィリピン	マニラと近郊、デ・ラサール大学	10万円程度	10名
第2回	2004年9月10～16日	6泊7日	台湾	台北、阿里山、鹿港、中国文化大学	10万円程度	11名
第3回	2007年9月3～9日	6泊7日	フィリピン	マニラと近郊、デ・ラサール大学	10～12万円	11名
第4回	2010年9月6～13日	7泊8日	中華人民共和国	大連、瀋陽、秦皇島、承徳、北京、大連外語大学	10万円程度	5名
第5回	2014年9月10～16日予定	5泊7日	アメリカ合衆国	ハワイ州オアフ島、ホノルル、ハワイ大学	20万円	2名(実施中止)
第6回	2018年3月7～14日予定	7泊8日	台湾	基隆、九份、花蓮、高雄、台南、台中、台北	15万円程度	2名(実施中止)

め、この調査結果には学生たちの本音の部分がかなり反映されているものと思われる。以下、アンケート調査の主要な質問についての結果とその解釈について報告する。

質問１． 2017年度に実施予定の「台湾巡検」は次のような条件で募集しました。
日　程：2018年３月７日（水）～14日（水）（８日間）
訪問先：台湾一周　　募集人員：学生12～20名程度
引率教員：内田順文、ほか１名（参加者多数の場合）
参加費用：151,000～158,000円（参加者の人数によって変わります）
あなたがこの海外巡検に参加の申し込みをしなかった**最も大きな理由**を、次の①～⑨のうちから**一つだけ選び**、○をつけて下さい。
①３月７～14日という実施日
②８日間という日程の長さ
③訪問先（台湾）
④募集人員が多すぎる・少なすぎる
⑤引率者に不満
⑥参加費用が高価
⑦この件に興味がないので答えられない
⑧私は参加の申し込みをした（するつもりだった）
⑨その他（　　）

質問１は、台湾巡検の参加希望者がほとんどいなかった直接の理由について確認するために設定した質問であり、学年とクロスさせた結果を表２に示す。有意確率は20.3％で、理由と学年との間に有意な相関は見られなかった。これを見ると、全学年を通じ最も多かった理由は「参加費用が高価」であり、４割以上の学生がこれを第一の理由として巡検に参加を希望しなかったことがわかる。この結果は、事前に複数の学生から個人的に聞いた不参加の理由と合致するが、この数（47名）は全体の数から「巡検に興味なし」の数を引いた85名を分母にしても約55％にしか相当せず、裏を返せば残りの45％は参加費用以外の理由により「巡検に興味はあるが今回希望しなかった」ことになる。参加費用の次に多い理由としては「日程（時期と長さのいずれか）」と「訪問先」が挙げられ、とくに１年生では「訪問先」を第一の理由に挙げた人の割合が他の学年よりも多いことがわかる。

表２　台湾巡検に参加しなかった理由と学年のクロス表

			台湾巡検に参加しなかった理由								合計
			実施日	日程の長さ	訪問先	引率者	参加費用	巡検に興味なし	参加したかった	その他	
学年	１年	度数	1	5	6	2	16	9	2	0	41
		学年の％	2.4％	12.2％	14.6％	4.9％	39.0％	22.0％	4.9％	0.0％	100.0％
	２年	度数	1	2	3	1	19	5	0	3	34
		学年の％	2.9％	5.9％	8.8％	2.9％	55.9％	14.7％	0.0％	8.8％	100.0％
	３年	度数	3	0	0	1	7	4	0	2	17
		学年の％	17.6％	0.0％	0.0％	5.9％	41.2％	23.5％	0.0％	11.8％	100.0％
	４年	度数	0	1	1	1	5	2	0	3	13
		学年の％	0.0％	7.7％	7.7％	7.7％	38.5％	15.4％	0.0％	23.1％	100.0％
合計		度数	5	8	10	5	47	20	2	8	105
		学年の％	4.8％	7.6％	9.5％	4.8％	44.8％	19.0％	1.9％	7.6％	100.0％

カイ２乗検定

	値	df	漸近有意確率（両側）
Pearsonのカイ２乗	26.093[a]	21	.203
尤度比	29.219	21	.109
線型と線型による連関	2.374	1	.123
有効なケースの数	105		

a.26セル（81.3％）は期待度数が５未満です。最小期待度数は.25です。

なお参考までに、回答者の約８％を占める「その他」の理由の大部分は「レポートを課せられるから」であったし、「引率者」を理由に挙げた者も全体の約5％と必ずしも少ないとはいえなかったことも付記しておく。

質問２．今回の海外巡検の日程についてお聞きします。次の①～⑦のうち当てはまるものを選び○をつけて下さい。○**は複数つけてもかまいません**。
①夏休みの期間中に実施してほしい。
②春休みの期間中に実施してほしい。
③冬休みの期間中に実施してほしい。
④授業期間中に実施してほしい。
⑤もっと短い日程（４～５日）で実施してほしい。
⑥もっと長い日程（10～15日）で実施してほしい。
⑦日程に関してとくに興味はない。

質問２は、事前の聞き取りから予想されていた巡検の日程についての希望を、複数回答の形式で詳しく聞こうとした質問で、学年とクロスさせた結果が表３である。これを見ると、実施希望時期としては「夏休み」期間中が最も多く、この調査の半年前に聞き取り調査した際の結果（海外巡検は夏休みより春休みの時期を希望する）と真っ向から異なっており、「授業期間中」を希望する者が少なからずいることと合わせ、回答者（学生）の考えの真剣さを疑わせる結果となった（ちなみに半年前の聞き取り調査の際、夏休みが避けられた最も多い理由は「暑いから疲れる」であった）。また、巡検の期間としては４～５日の日程を希望する者がかなりいたが、国内旅行と違ってこの日程では現地滞在時間が２日ほどになってしまうことを理解したうえで答えているのだろうか。ただし、後の質問で出てくる「希望する巡検の内容」とのクロス分析の結果を見ると（本稿では表は示さない）、「観光」や「ショッピング」を希望する学生に回答者が多いので、ひょっとすると家族旅行で行くようなソウルや香港やグアムへの観光旅行を想定しているのかもしれない。

質問３．今回の海外巡検の訪問先と巡検の内容についてお聞きします。次の①～⑥のうち当てはまるものを選び○をつけて下さい。○**は複数つけてもかまいません**。
①巡検は１箇所に滞在して調査・見学などをする形式にしてほしい。
②巡検は複数箇所を周遊しながら調査・見学などをする形式にしてほしい。
③もっと調査・研究色の強い巡検にしてほしい。
④もっと観光旅行の要素の強い巡検にしてほしい。
⑤もっと娯楽やショッピングを目的とした巡検にしてほしい。
⑥巡検の内容に関してとくに興味はない。

表３　日程の希望（複数回答）と学年のクロス表

			日程の希望（複数回答）							合計
			希望日程 夏休み	希望日程 春休み	希望日程 冬休み	希望日程 授業期間中	４～５日の日程	10～15日の日程	日程に興味はない	
学年	１年	度数	5	5	1	5	19	1	17	43
		学年の％	11.6％	11.6％	2.3％	11.6％	44.2％	2.3％	39.5％	
	２年	度数	8	4	1	1	10	1	16	36
		学年の％	22.2％	11.1％	2.8％	2.8％	27.8％	2.8％	44.4％	
	３年	度数	7	1	0	1	6	0	6	17
		学年の％	41.2％	5.9％	0.0％	5.9％	35.3％	0.0％	35.3％	
	４年	度数	4	0	0	2	2	0	7	13
		学年の％	30.8％	0.0％	0.0％	15.4％	15.4％	0.0％	53.8％	
合計		度数	24	10	2	9	37	2	46	109

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

質問３は、巡検の内容についての希望を複数回答の形式で詳しく聞こうとした質問で、学年とクロスさせた結果が表４である。これを見ると、「一箇所に滞在する」よりは「複数箇所を周遊する」ほうが希望者が多いこと、「調査・研究色の強い巡検」よりも「観光や娯楽要素が強い巡検」を希望する者が圧倒的に多いことがわかる。ただ、2017年度に予定した台湾巡検はメインの目的が「文化地理、観光地理」であったこともあり、かなり周遊観光色の強い巡検だと思われるのだが、それ以上に観光や娯楽の部分を増やすとなると、それはもはや地理巡検と呼べるのかどうか、多少疑問ではある。

質問４．今回の海外巡検の参加費用についてお聞きします。あなたは他の条件（日程・内容など）が同じだった場合、**参加費用がいくら以下であれば参加しましたか**。次の①～⑦のうちから一つだけ選び、○をつけて下さい。

①１万円以下であれば参加した（１万円より高いので参加しなかった）。
②５万円以下であれば参加した（５万円より高いので参加しなかった）。
③10万円以下であれば参加した（10万円より高いので参加しなかった）。
④12万円以下であれば参加した（12万円より高いので参加しなかった）。
⑤13万円以下であれば参加した（13万円より高いので参加しなかった）。
⑥14万円以下であれば参加した（14万円より高いので参加しなかった）。
⑦参加費用がどれだけ安くとも、参加する気はなかった（巡検には興味がない）。

質問４は、事前の聞き取りから参加者が少ない最大の理由と予想された巡検の参加費用について、どこまで下げれば参加者がどのくらい増える可能性があるのかを、具体的に細かく知るために設定した質問である。有意確率は6.0％で、理由と学年との間に有意な相関は見られなかった。これを見ると、その理由までは特定できないが、参加費10万円が一つの目安になっているらしいことは何となくわかる。ただし、「今回の海外巡検（台湾巡検）」はこのルート（台湾一周）と日程（７泊８日）なら、一般のツアーであれば安くても20～25万円以上は確実にする内容であり、それを工夫に工夫を重ねて15万円台にしたことを、彼らはどのくらい理解できていたのだろうか。「５万円以下」はまだしも、予算１万では千葉にあるTDLに遊びに行くのもぎりぎりであることは多少気の利いた小学生でもわかるはずで、「１万円以下なら参加（してやる？）」という回答に至っては、ふざけているとしか思えない。なお、表からは

表４　内容の希望（複数回答）と 学年のクロス表

			内容の希望（複数回答）						合計
			一箇所で調査・見学	複数箇所で調査・見学	もっと調査・研究色の強い巡検	もっと観光要素の強い巡検	娯楽やショッピングを目的とした巡検	内容に興味はない	
学年	１年	度数	2	10	2	18	4	15	43
		学年の％	4.7％	23.3％	4.7％	41.9％	9.3％	34.9％	
	２年	度数	2	13	2	17	6	9	36
		学年の％	5.6％	36.1％	5.6％	47.2％	16.7％	25.0％	
	３年	度数	0	5	0	7	0	5	17
		学年の％	0.0％	29.4％	0.0％	41.2％	0.0％	29.4％	
	４年	度数	1	8	0	6	1	1	13
		学年の％	7.7％	61.5％	0.0％	46.2％	7.7％	7.7％	
合計		度数	5	36	4	48	11	30	109

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

表５　参加費用上限金額と学年のクロス表

			この参加費用以下ならば参加した							合計
			１万円以下なら参加した	５万円以下なら参加した	10万円以下なら参加した	12万円以下なら参加した	13万円以下なら参加した	14万円以下なら参加した	費用に関係なく参加しない	
学年	１年	度数	0	12	11	2	2	1	15	43
		学年の％	0.0％	27.9％	25.6％	4.7％	4.7％	2.3％	34.9％	100.0％
	２年	度数	1	15	8	1	1	1	9	36
		学年の％	2.8％	41.7％	22.2％	2.8％	2.8％	2.8％	25.0％	100.0％
	３年	度数	4	1	4	1	0	1	6	17
		学年の％	23.5％	5.9％	23.5％	5.9％	0.0％	5.9％	35.3％	100.0％
	４年	度数	0	7	3	0	0	1	2	13
		学年の％	0.0％	53.8％	23.1％	0.0％	0.0％	7.7％	15.4％	100.0％
合計		度数	5	35	26	4	3	4	32	109
		学年の％	4.6％	32.1％	23.9％	3.7％	2.8％	3.7％	29.4％	100.0％

カイ２乗検定

	値	df	漸近有意確率（両側）
Pearsonのカイ２乗	28.159[a]	18	.060
尤度比	26.780	18	.083
線型と線型による連関	1.676	1	.195
有効なケースの数	109		

a.21セル（75.％）は期待度数が5未満です。最小期待度数は.36です。

14万円なら４名、13万円ならさらに３名の参加者が増えた勘定になるが、その後、日程を減らし宿泊するホテルを浮かすことで参加費を13万ほどにする条件で追加募集をかけた際にも、応募者はゼロであった。

質問５．あなたは地理学教室の海外巡検の今後について、どの程度関心がありますか。次の①～④のうちから**最も当てはまるものを一つだけ選び**、○をつけて下さい。

①自分も海外巡検に参加したいので、海外巡検は今後も続けてほしい。

②自分は海外巡検に興味はないが、必要とする人たちのために海外巡検は今後も続けてほしい。

③自分は海外巡検に興味はないので、海外巡検の存続についてどちらでもかまわない。

④その他（　　）

質問５は、海外巡検に対する今後の自分の態度と今後の巡検実施への希望について質問したものである。これを見ると、１～２年生には今後の参加を考えている者が多いのに対し、３～４年生にはそれがほとんどないという傾向がありそうで、カイ２乗検定の結果（有意確率は4.5％）からも理由と学年との間に有意な相関が認められた。ただ、１年から４年まですべての学年で圧倒的に多いのは「自分は海外巡検に興味はないが、必要とする人たちのために海外巡検は今後も続けてほしい」という意見で、一見すると他人を思いやる意見のようにも見えるが、利用者が減少したために赤字に苦しむローカル鉄道の存続に関して「自分は自動車を使うので鉄道を利用するつもりはないが、鉄道は廃止しないでほしい」という意見と同じで、自らが当事者であることを棚に上げた無責任で身勝手な言い分と言えなくもない。

質問６．海外巡検を企画・実行するためには、教員・学生・旅行代理店などの多くの関係者の多大な労力と

表６　海外巡検の今後への関心と学年のクロス表

			海外巡検への今後について				合計
			自分も参加したいので続けてほしい	自分は参加しないが続けてほしい	自分は参加しないのでどちらでも構わない	その他	
学年	１年	度数	7	20	12	3	42
		学年の％	16.7％	47.6％	28.6％	7.1％	100.0％
	２年	度数	12	21	3	0	36
		学年の％	33.3％	58.3％	8.3％	0.0％	100.0％
	３年	度数	1	9	4	3	17
		学年の％	5.9％	52.9％	23.5％	17.6％	100.0％
	４年	度数	1	9	2	1	13
		学年の％	7.7％	69.2％	15.4％	7.7％	100.0％
合計		度数	21	59	21	7	108
		学年の％	19.4％	54.6％	19.4％	6.5％	100.0％

カイ２乗検定

	値	df	漸近有意確率（両側）
Pearsonのカイ２乗	17.256[a]	9	.045
尤度比	19.168	9	.024
線型と線型による連関	.212	1	.645
有効なケースの数	108		

a．８セル（50.0％）は期待度数が５未満です。最小期待度数は.84 です。

時間を要するわけですが、そのことをふまえて、あなたは地理学教室の海外巡検の今後について、どのようにすべきだと考えますか。次の①～⑥のうちから**最も当てはまるものを一つだけ選び**、○をつけて下さい。

①大学側から学生への当然のサービスなので、たとえ参加者が定員に満たなくとも、ずっと続けていくべき。

②たまたまここ数年は催行できなかったが、次回（数年後の後輩たち）はどうなるかわからないので、とりあえず続けていくべき。

③参加者が少ないのは、巡検の内容や費用などに問題があるからなので、海外巡検を企画する側が、もっと多くの参加者が見込めるような内容の海外巡検を企画すべき。

④海外巡検などやめてしまったらいい。

⑤この件に関しては興味がない。

⑥その他（　　）

質問６は、質問５と関連する質問で、教室で企画している海外巡検に対してどのような認識を持っているかを知るために設定した質問である。有意確率は66.2％で、海外巡検に対する認識と学年との間に有意な相関は見られなかった。これを見ると、「とりあえず続けるべき」という、ある意味無責任な回答がほぼ半数を占めているが、その内訳を質問５とのクロス分析の結果から見ると、質問５において「自分は参加しないが続けてほしい」と回答した59名のうち、質問６で「とりあえず続けるべき」と答えた者は38名（64.4％）、さらに「企画者の努力が足りない」と答えた者も15名（25.4％）いた。

アンケート調査実施から今回の海外巡検実施までの経緯

結局、2017年度に実施予定だった台湾巡検は、その後参加費用を引き下げるなどして再募集を行ったが、参加希望者が増えることはなく、第５回の海外巡検につづいて催行中止が決定した。翻って、上記アンケート調査の結果か

表７　海外巡検についての意見と学年のクロス表

			海外巡検についての意見					合計
			大学側の当然のサービスだから参加者がなくとも続けるべき	とりあえず続けるべき	企画者の努力が足りない	やめてしまったらいい	興味がない	
学年	１年	度数	5	20	11	3	4	43
		学年の％	11.6％	46.5％	25.6％	7.0％	9.3％	100.0％
	２年	度数	4	20	8	1	3	36
		学年の％	11.1％	55.6％	22.2％	2.8％	8.3％	100.0％
	３年	度数	0	8	8	0	1	17
		学年の％	0.0％	47.1％	47.1％	0.0％	5.9％	100.0％
	４年	度数	2	8	3	0	0	13
		学年の％	15.4％	61.5％	23.1％	0.0％	0.0％	100.0％
合計		度数	11	56	30	4	8	109
		学年の％	10.1％	51.4％	27.5％	3.7％	7.3％	100.0％

カイ２乗検定

	値	df	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ２乗	9.473[a]	12	.662
尤度比	12.512	12	.405
線型と線型による連関	1.110	1	.292
有効なケースの数	109		

a.14セル（70.％）は期待度数が5未満です。最小期待度数は.48です。

らわかったことを整理すると以下のようになる。

・教室主催の海外巡検への参加を、真剣に希望している者は必ずしも多くはない。
・1・2年生と比べて、3・4年生は、海外巡検への興味が少ない。
・参加する気のある学生の多くが参加について真剣に考えるのは、参加費用10万円以下がひとつの基準になる。
・一箇所の滞在よりは複数箇所の周遊を希望する学生が多い。しかし日程は短期間を希望する学生が多い。
・調査・研究色の強い巡検より、観光・娯楽色の強い巡検を希望する学生が圧倒的に多い。

この結果を見るかぎり、10名以上の学生を集め、旅行会社の団体旅行バスをチャーターする、これまで催行してきた海外巡検のようなスタイルでは、簡単には実施できそうにないことがわかった。しかし、少数ながらも海外巡検の実施を希望する者がいる以上、とりあえず9年ぶりに海外巡検を実施するために、巡検の催行人員を少なく設定して、もう一度企画段階から再考することになった。そこで年度が替わった2018年、旅行会社や航空会社が通常販売している、いわゆる自由滞在型のパッケージ・プランを利用し、往復の航空券の手配と宿泊ホテルの予約については旅行会社に手配するが、現地での行動は、一人の教員が数名の学生を連れて移動は公共交通機関を用い、食事も自力で探すタイプの海外巡検を企画した。とりあえず選択

肢は多いほうが学生が集まりやすいと考え、5～6日の短い日程で、参加費用が4万～15万円の範囲で東アジアからヨーロッパまで、距離と費用に応じて以下の4つのコースを企画し、7～9月に参加者を募集した。

Aコース

巡検先：中国　杭州とその周辺　日程：4泊5日
参加費用：4.5万～5.5万円
巡検の内容：浙江省の省都杭州を宿泊地として、世界遺産にもなっている西湖周辺の国際観光の実態を見学するとともに、周辺の紹興市・湖州市や中国式テーマパークなどにも足を延ばしてみたい。訪問先の詳細については、参加が決まった学生と相談して決めたい。食事は当然本場の中華料理を堪能する。

Bコース

巡検先：ベトナム　ダナン、フエ　日程：4泊5日
参加費用：7万～9万円
巡検の内容：世界遺産にもなっているフエやビーチリゾートとして急発展したダナンの国際観光の実態を調査する。参加費用の差は、宿泊するホテルのグレードの差による。宿泊ホテルのグレードについては、参加が決まった学生と相談して決めたい。

Cコース

巡検先：ハワイ　ホノルルとオアフ島
日程：4泊6日（機中泊1）
参加費用：12万円程度
巡検の内容：ホノルルを拠点として、国際観光の実態（とくに日本人観光客へのサービス）を調査するとともに、公共交通機関を使ってオアフ島の各所にも足を延ばしてみたい。

Dコース

巡検先：フランス　パリとその周辺
日程：3泊6日（機中泊2）
参加費用：13万～16万円
巡検の内容：パリに3泊し、パリの旧市街はじめ郊外へも足を延ばして見学・観光する。参加費用の差は、利用する航空会社の乗り継ぎの便の差による。具体的な航空会社の選択は、参加が決まった学生と相談して決めたい。この参加費用ですので、フランス料理のフルコースは食べられません。

ある程度予想されたことだが、この新たな条件でも、ほとんど参加希望者を得ることはできなかった。しかし、今回のプランでは応募者少数でも催行できるため、期日までに応募した3名（いずれも男性）を参加者と決定した。いずれも複数のコースに参加申し込みをしていたが、全員が共通して希望したコースがDコースだったため、2018年度の海外巡検の行き先はフランスのパリと決定し、参加学生には基本的にｅメールを通じて連絡を行い、旅行参加申込書などの書類のやりとりを行いつつ、2019年2～3月の実施を目指して、必要な準備を詰めていくことになった。

その後、観光資源の豊富なパリ市内を巡りながら、フランスにおける近年の観光の実態調査や、風景の観察をテーマに、10月以降、大手旅行会社のパッケージ・プランを複数検討し、参加者の学生3名とともに巡検の内容について検討・相談し、旅の具体的なデザインを作り上げていくうち、パリだけではなく有名な世界遺産モン・サン・ミシェルへも訪れたいという希望が多くなり、その結果当初予定したパリ4泊から5泊へ滞在日数を増やすことになり、この条件で予算に合うパッケージ・プランを一人14万円強の代金でHISへ申し込むことに決定した。参加学生に対する説明会は、必要に応じて出発までに数回行い、2月15日（金）に出発前の最終確認を行った。

海外巡検の実施内容

2019年2月19日（火）　天気：雨

巡検参加者3名と引率教員1名は、予定通り2050に羽田空港国際線ターミナルに集合し（写真1）、すでに2350発のカタール航空QR813便のチェックインは始まって列ができはじめていたので、すぐに最後尾に並ぶ。事前にオンライン・チェックインの手続きをしていたおかげで30分ほどでチェックインの手続きを終えることができ、つづく出国手続きも長蛇

写真１　羽田空港国際線ターミナル４階に集合

の列ができていたが、出国審査が顔認証方式になっていたため意外とスムースに流れ、2200には全員無事に出国手続きを終えた。所定の2325には搭乗が始まったものの、機材が本来のB777からA350-900へ変更になった影響からか出発が遅れ、ゲートを離れて動き出したのは日付を跨いだ030だった。

2月20日（水）　天気：晴

QR813便は、羽田からほぼ西へ向かって飛行したあと島根県から日本海を渡り、韓国上空を経て、天津・北京をかすめて内蒙古からモンゴル、アルマティ、ビシュケクを通ってイランへと抜け、約12時間の飛行の後、615ドーハのハマド国際空港へ到着、大量の乗り換え客がトランスファーへ向かってごった返すが、ボディチェックは靴の裏まで念入りにされたものの、係官が手際よく捌いていくので、700には出発側のロビーへ到着していた（写真２）。懸念していた乗り換えも無事にこなし、QR39便パリ行きへと搭乗し安心していたら、出発直前になってエンジントラブルとかで延々待たされ、結局ドーハを飛び立ったのは予定より90分も遅い900前だった。

ドーハを発った機は、ペルシャ湾上空を北上し、イラクからトルコ・ブルガリア上空を抜けヨーロッパへ７時間の飛行を経て、予定より60分遅れの現地時間1415にパリのシャルル・ド・ゴール空港へ到着した（写真３）。かなり混雑した入国手続き後、この日いちばんの仕事であるパリ市内のフリー乗車券「パス・ナヴィゴ・スメータ」（27.8ユーロ）を苦心しながらもなんとか手に入れ、まずはRER（郊外電車）に乗ってパリ市街へ移動する。飛行機の遅れにより市街中心部に寄っていく時間はなくなったので、パリ北駅でメトロ（地下鉄）３号線に乗り換えて終点のガリエニ駅で降り、宿泊予定のホテルへ直行した。『地球の歩き方』によれば、空港からのこのルートは治安が悪くお薦めしないとのことだったが、たしかに乗った車両の乗客の半数以上はカラードで、ラジカセで大音量の音楽を流している男やわけもなく大声で怒鳴っている男とか、いかにも恐そうな人が多く、我々４人はできるだけ他人と目を合わせないようにしてボックス席で大人しくしていた。ホテルのほうも、とにかく旅行費用を安くする

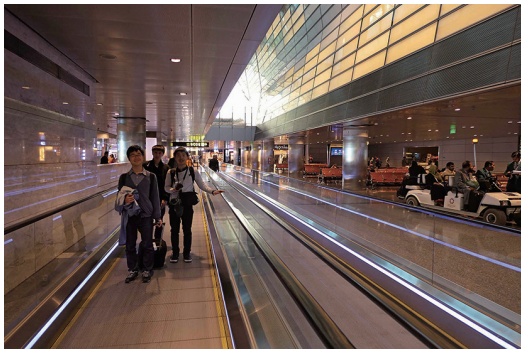

写真２　ドーハ、ハマド国際空港で乗り継ぎ

写真３　ようやくシャルル・ドゴール空港に到着

写真４　宿泊したHotel ibis budget Paris Porte de Bagnolet

写真５　巨大スーパーAuchan

ためにパリ郊外（いわゆるバンリュー）に立地する二つ星ホテルにしたため、部屋の中はというと、旅行会社（HIS）の事前のお知らせで、エアコンも冷蔵庫もポットも付いていないことは知らされていたが、ベッドとTV以外はプラスチック製の椅子が一個付いているきりで、殺風景この上ない（写真４）。なぜかバスタブと石鹸とシャンプーだけは付いていた。空港からの公共交通機関の心細さといい、生活に不便な質素なホテルといい、学生時代にさんざん行った貧乏旅行を思い出すが、この体験こそ、パックツアーではぜったいに味わえない個人旅行の醍醐味と言えなくもない。

格安旅行なので当然食事は付いていないから、自分で調達しなければならない。幸い宿のすぐそばに大型スーパーがあるはずなので、しばし休息の後、本日の夕食を買い出しに行く。行ってみるとわずか80ｍ程の距離のところに大手スーパーのAuchan（オーシャン）があり、日本でも滅多に見ないような巨大なスーパーで、とにかくものすごい種類の商品を売っているため、これは食事代を安く上げるための毎日の食材確保にはとても便利だった（写真５）。ただし物価は先進国フランスだけあって、たいていのものは日本と同じかそれより高い。それでも２時間近くかけて隅々まで確認し、だいたいの物価を把握した結果、生鮮食料品は（ものにもよるが）日本よりは割安、とくにチーズとワインとハムは日本よりずっと安く、パンも同様で最安のバゲットだと１本0.48ユーロ（約60円）と安くておいしいので、これらの特売品を買って帰り、部屋で豪勢なディナーをいただいた。

２月21日（木）　天気：晴

２月のパリの平均気温は4.2℃、最低最高気温の平均は1.2～7.3℃なので、同時期の東京よりは若干低く、天気によっては日中でも零下になるため、現地の天気については出発前からいちばん気にかかる点の一つだったのだが、結果から言うとこの年のパリの冬は記録的な暖冬で、しかも到着前日まで続いていた長雨が止み、到着した日には久しぶりの晴れで予想外に暖かかったため、我々は一安心した。じつはこのあと一週間のパリ滞在中、毎日快晴で、しかも昼間の最高気温が20℃近くまで上がり、結果的には荷物に入れてきたセーター類は一度も活躍することなく仕舞われたままとなり、天候の上では最高にラッキーな旅となった。ただ、これもある意味で地球全体に拡がる異常気象の表れであり、手放しで喜べることではなかったかもしれない。

いずれにせよ、この日は朝から雲一つない好天で風もなく、観光初日としては絶好の日和となった。事前に参加学生からどこ（何）を重点的に廻りたいか、について意見聴取をした結果、基本的にはできるだけ多くのものを見たい

との合意を得ていたので、パリ観光に割くことのできる正味3日間でパリの旧市街をできるだけ多く歩き、パリ市内のフリー乗車券「パス・ナヴィゴ・スメータ」をフル活用して多くのスポットを訪れるというコンセプトで、周遊・巡検の予定を立てた。その計画に従い、朝食ののち800早々にホテルを出発したが、まだ通勤時間帯で駅やメトロ車内はそれなりに混んでおり、乗り換えで多少のトラブルもあったものの、とりあえず900にはパリ中心部にあるマドレーヌ広場に到着し、ここからいよいよパリ巡検をスタートした（写真6）。

初日ということでしばらくは心身を現地に慣らすことを念頭に、午前中はロワイヤル通りからコンコルド広場（写真7）へ、コンコルド橋を渡ってセーヌ川沿いの散策路レ・ベルジュ（写真8）を歩き、アルマ橋を渡りシャイヨ宮を経由してエッフェル塔（写真9）を、午後はフランス革命ゆかりの地バスティーユ広場から巡検をはじめ、中世のたたずまいを残すマレ地区を散策し（写真10）、2016年に再開発されたパリの新名所フォーロム・デ・アールから中心市街地のパッサージュ（アーケード街）を巡りつつ（写真11）、ヴァンドーム広場へと歩いた。

このあと明早朝に参加するモン・サン・ミシェル行きのツアーの集合場所を確認し、ついでに明後日に使用予定の「パリ・ミュージアム・パス2日間」（48ユーロ）も入手することができた。このとき1700となり夕暮れが近づいてきたので、メトロでアベス駅へ移動し、観光客で賑わうモンマルトル地区（写真12）を散策、さいごはサクレ・クール寺院からパリ市街に沈む夕陽を眺め（写真13）、丘を下りた頃にはすっかり暗くなったので、メトロでホテルへ

写真6　ロワイヤル通りとマドレーヌ教会

写真8　レ・ベルジュ、アレクサンドル3世橋

写真7　コンコルド広場

写真9　アルマ橋よりエッフェル塔

写真10　マレ地区、ヴォージュ広場

写真12　モンマルトル、テルトル広場

写真11　ギャルリー・ヴェロ・ドダ

写真13　サクレ・クール寺院前より

帰り、スーパーで夕食を買って実質的な巡検第一日を終了した。

2月22日（金）　天気：晴

この日は学生の希望により、バスツアーを利用してノルマンディ地方のモン・サン・ミシェルとその周辺を巡検した。早朝545にホテルを出発、まだ真っ暗な中を徒歩とメトロでオペラ通りへと向かい、700過ぎにツアーバスに乗車してパリ市街を後にする。夜が明ける直前頃から周囲は濃霧となり今後が危惧されたが、昼前にノルマンディ地方を快走している頃から快晴となり、曇りや雨の日が多いこの地方にあっては珍しい絶好の巡検日和となった（写真14）。バスは途中、セーヌ川の河口近くにある小さな町ディーヴ・シュル・メールに立ち寄り（写真15）、1240モン・サン・ミシェルから2kmほど離れたラ・カゼルヌの町に到着。ここから無料

写真14　ノルマンディの田園風景

シャトルバスに乗り換えて島へ向かった。以前は本土と島とをつなぐ砂碓上に舗装道路が引かれ、自動車でモン・サン・ミシェルの直下へ横付けできたのだが、砂の堆積が進んだため、2009年に道路を取り壊して水流の流れを良くし、現在は橋によって結ばれており（写真16）、一般の

写真 15　ディーヴ・シュル・メール、歴史的建築地区

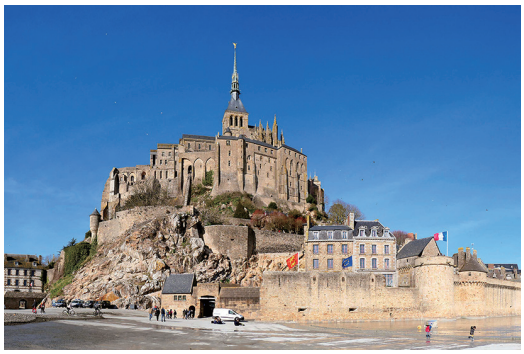

写真 17　モン・サン・ミシェル

写真 16　モン・サン・ミシェルと結ぶ連絡橋

写真 18　王の門とラ・メール・プーラール

車は一切入れなくなっている。モン・サン・ミシェルでは 4 時間ほどの時間的余裕があったため、ここからは自由行動とし、各自の興味に従ってこの有名な世界遺産を心ゆくまで巡ることとした（写真17）。

島は周囲を堅固な城壁で囲まれており、入口から中へ入るとまず「王の門」があり、その手前には名物のオムレツで有名な「ラ・メール・プーラール」がある（写真18）。その先は修道院までの大通り（グランド・リュ）で、両側には土産物屋やホテルやレストランが軒を並べているのだが、この日は工事中で通ることができず、島を半周する城壁の上を歩いて修道院へ登った。入場料を払って修道院へ入り階段を登ると、聖堂前の広々とした西のテラスがあり、高さ 80 m のこのテラスからの眺望は抜群で、先ほど渡ってきた橋や入口が眼下に見下ろせる

写真 19　修道院西のテラスからの眺望

（写真19）。帰りは、島の岩峰の北側に聖堂と隣接して建てられ、その素晴らしさから「ラ・メルヴェイユ（驚嘆）」と呼ばれる修道院の居住空間を見学しながら山を下りた（写真20）。

通常であれば 2 月のモン・サン・ミシェルは厳寒の候で、ほぼ毎日雨か曇りが続くのだが、

写真20　ラ・メルヴェイユ、回廊

写真22　ヌフ橋とシテ島

写真21　夜のルーブル宮、カルーゼル凱旋門

写真23　ノートルダム大聖堂

写真を見てわかるように、一片の雲もない快晴で風もなく、歩いていると汗ばむほどのぽかぽか陽気で、パリの天気運はノルマンディまで続いていた。あまりの気持ちの良さに、帰りはシャトルバスには乗らず、歩いてラ・カゼルヌへ戻ったほどだった。天候にも恵まれ世界遺産の風景を堪能した我々は、1600頃現地を出発し、2045にパリ市街へ帰着した後、夜のルーブル宮（写真21）からセーヌ川沿いに（写真22）シテ島のノートルダム寺院（写真23）まで1時間ほど中心市街の夜景を見学しながら歩き、ホテルへ帰った。

2月23日（土）　天気：晴

この日はとても混雑するといわれるルーブル美術館を少しでも効率よく見るため、900の開場と同時に入場しようと、連日の早起きをして、630過ぎにはホテルの地下にある食堂で朝食を摂った。ホテルの部屋の殺風景さについてはすでに述べたが、じつは宿泊料に付いていた朝食については、想像以上に満足できるものであった（写真24）。もちろんコンチネンタル・タイプの朝食なので卵やハム・ソーセージは出ないが、パンは焼きたてのクロワッサンとバ

写真24　ホテルのブレックファスト

ゲット、ほかに個別包装された黒パンやクラッカーやオートミールなどがあり、数種類のヨーグルトにバター・ジャムの類、飲み物はコーヒー・カフェオレのサーバーとリンゴとオレンジの100％ジュース。とくにパンが絶妙においしい。フランスは本当にどこに行ってもパンがおいしいが、今回も裏切られることはなかった。食事時間も平日は600からと早かったのは、いわゆるビジネスホテルとしての利用が多いからと予想され、この日からフランス中の学校が冬休み（春休み？）に入るとかで、昨夜からパリ見物とおぼしき複数のフランスの高校生も宿泊していた。それこれ考えると、メトロの駅からの近さといい、巨大スーパーへのアクセスといい、値段の割には満足できるホテルだったといえるかもしれない。

さて、745にホテルを出発し、いまや使い慣れたメトロに乗ってルーブル美術館へ向かった我々は、地下にあるという美術館の入場口を捜すのに少々手間取ったものの、840には入場を待つ列の先頭から十数人目くらいには並ぶことができた。900ちょうどに開門され、まずはセキュリティ・チェック、つづいてチケット・チェックがあり、館内に入ると館内はまだ無人の状態だ。最も混み合う「モナ・リザ」のあるドゥノン棟２階へ直行し、おかげでほとんど人のいないうちに「モナ・リザ」を鑑賞することができた（写真25）。その後、「ぜんぶ観る」を合い言葉に４時間かけて全館を踏破したものの（写真26）さすがにみんな疲れたようだ。

つづいて凱旋門を目指したが、じつはこの日にはパリ中心部で大規模なデモ行進が予定されており、朝のＴＶニュースでもそれらしい報道をしていた。ただ、凱旋門はデモの出発地のため、13時過ぎにはとっくに封鎖解除されていると思っていたが、考えが甘く、着いてみると多数の武装警官がたむろしていて凱旋門は「入場禁止」となっている。しかたがないのでとりあえず写真だけ撮って（写真27）、ポンピドゥ・センターの近代美術館を目指したが、こちらもセキュリティ・チェックが異様に厳しく、入場するのに時間がかかった（写真28）。１時間ほど見学した後、シテ島のノートルダム寺院へ向かうが、休日だからか異常なほど混んでおり、入場者の長蛇の列ができていたので、ここは後

写真26　ルーブル美術館を徹底的に巡検

写真25　ルーブル美術館、「モナ・リザ」の前で

写真27　エトワール凱旋門

写真28　ポンピドゥ・センター７階よりパリ市街

写真30　サン・ジェルマン・デ・プレ教会

写真29　パンテオン、フーコーの振り子

写真31　エトワール広場、厳重警戒中

回しにしてセーヌ川の左岸地区を巡ることにする。すでに1630を過ぎて日も傾いてきていたが、パンテオン（写真29）、リュクサンブール公園、サン・ジェルマン・デ・プレ教会（写真30）を中心に、セーヌ川左岸地区を日没後まで精力的に歩いた。すでに暗くなっていたが、閉鎖が解除されたかもしれないと思い再度凱旋門へ立ち寄ったが、昼間より警官の数が増えており、中に入ることはできなかった（写真31）。

明日は日曜で、スーパーマーケットは午前中しか営業しない（昔は日曜休業だったのでこれでもずいぶん便利になってはきている）ため、ホテルに帰る前にスーパーで２日分の夕食を買い出しして帰った。

２月24日（日）　天気：晴

この日はヴェルサイユ宮殿を巡検するために、730にホテルを出発、メトロでオーステルリッツ駅まで行き（写真32）、そこから郊外電車に乗って近郊のヴェルサイユ市へ向かったが、うっかりパリ市街を大回りしていく電車に乗ってしまったため、到着までに１時間以上を要してしまったものの、のんびりとした汽車旅は楽しめた。結局ヴェルサイユ宮殿に到着した

写真32　オーステルリッツ駅で郊外電車を待つ

のは1000過ぎで（写真33）、まず人の列に並んで宮殿の内部を見学、この日は日曜ということもあってかなりの人混みのなか、有名な「鏡の回廊」も見ることができた（写真34）。その後、広大な庭園へ出て、庭園内にあるグラン・トリアノンとプチ・トリアノンを見学した。

1400過ぎの列車でパリ市内へと戻り（写真35）、ナポレオンが眠るアンヴァリッド（写真36）を見たあと、1600にはオルセー美術館に着き、閉館する1800まで急いで全館を見学した（写真37）。つづいて夕暮れ時のテュイルリー公園を歩き、日没が近づいてきたので、昨日から懸案だったエトワール凱旋門へ向かい、三度目にしてようやく入場することができた。その後しばらく凱旋門上で日没を待ち、日没後は夜景目的の観光客がぞくぞくと登ってきたが、夕暮れから夜景へと刻々変化するパリ市街の風景を40分ほどゆっくりと眺めることができた（写真38）。外はすっかり暗くなってしまったものの、最後の夜なので名残惜しく、このあとパレ・ガルニエ（通称オペラ座、写真39）まで足を延ばし、この日の巡検を終了した。

写真35　ヴェルサイユ・シャトー・リヴ・ゴーシュ駅の郊外電車

写真33　ヴェルサイユ宮殿の入口

写真36　アンヴァリッド、ナポレオンの棺

写真34　ヴェルサイユ宮殿、鏡の回廊

写真37　オルセー美術館

写真38　エトワール凱旋門より、パリの夜景

写真39　夜のパレ・ガルニエ（オペラ座）

2月25日（月）　天気：晴

2月26日（火）　天気：晴

いよいよパリでの最終日となった。これまで連日早朝から巡検し、学生の疲労もかなり蓄積していたので、この日は午前中を自由時間とし、部屋でゆっくりくつろぎ、スーパーで各自お土産の買いものをして過ごした後、1130にホテルをチェックアウトした。飛行機の発時刻まで間があったので、これまで何度も前を通りながらずっと中に入れずにいたノートルダム大聖堂へ行くと、行列に並ぶことなく中に入ることができ、ゆっくりと内陣を見ることができたし（写真40）、出発直前に『ブラタモリ』が取り上げていたポワン・ゼロ（フランス道路原標）を確認することもできた。

時間はまだたっぷりとあったものの、誰もが大量のお土産を買ったため荷物の重さも増え、

写真40　ノートルダム大聖堂、翼廊と南の薔薇窓

昨日までのように歩くことは難しいので、サン・ルイ島からセーヌ川の左岸沿いにオーステルリッツ駅まで歩き、そこから郊外電車でCDG空港へ向かうことにする。来るときと同じルートで空港へ行くことになったわけだが、六日前に来たときとは違って、電車内が恐いと思う感情はなくなっていた。

1550にCDG空港へ到着し、巨大な空港内を探検して時間をつぶした後チェックインし、2130にカタール航空QR38便にてパリを発つ。機は夜を徹して、往路とほぼ同じルートで飛行し、定刻の600にドーハ・ハマド空港へ到着。1時間あったはずのトランスファーの時間はあっという間に過ぎ、QR814便東京行きの搭乗時間となる。こちらも定刻の705に出発し、9時間の飛行の後、日本時間の2220、予定より少し早く羽田空港国際線ターミナルに到着した。終電の時間も迫っていたので、空港内で簡単な解散式を行い、今回の海外巡検は無事に終了した。

結びにかえて

今回の海外巡検は、多数の学生を引率するというツアー形式ではなく、計4名の少数のグループでガイド無し、旅先での移動にはすべて公共交通機関を使う、というスタイルで実施された初めての海外巡検となった。8日間の巡検を終えてみて、当初の目的としていた『旅の地

理学』『レクリエーションと環境』の実践・実習としての役割は十分果たしたと思われる。また、今回の海外巡検は引率教員１人に対して学生３人というこぢんまりしたグループだったので、可能な限り学生全員の意見を聞き、とくにこれといった決まりにも縛られず、自由に小回りの効く効率的な巡検ができた。参加した３名はすべて海外旅行初心者で、はじめの頃こそ海外に慣れない様子だったが、意欲的にパリの街中を歩き回るうちに、海外での行動にもずいぶんと自信を得たように見受けられ、その点でも今回の海外巡検の成果は大いにあったと言えよう。

筆者にとってもパリを訪れるのはちょうど20年ぶりで、ノートルダム寺院や凱旋門といった名所の姿はさすがに昔と変わらないものの、有名観光地の混雑ぶりやファストフード店の増加など、明らかに以前と変わったと感じた点はいくつもあった。そういえば、以前はパリ市内でふつうに見かけた犬の糞を、今回はただの一度も見ることがなかったので、帰国後ネットで調べてみたら、どうやらパリ市当局が放置者に罰金を科すなどして美化を進めた結果らしい。モン・サン・ミシェルのほうは26年ぶりで、そのときは訪れる人の数はまばらで、島内はゆっくりと歩けたものだったが、今回は観光客の数が激増していた。そのかわり修道院全体がきれいに修復されていて、順路や説明書きが整備されていた。一方で、外がかりっとして中がふわふわのフランスパンが、以前と変わらず美味しかったことは本文中にも書いたとおりである。

今回の海外研修は全日快晴に恵まれ、しかもパリの気候が平年値（日最高気温が約５℃）より10℃以上も高く、毎日が最適の巡検日和だったことは、非常にラッキーだった。それにも増して、巡検期間中これといった大きなトラブルもなく、すべて計画したとおりに順調に遂行することができたことから、参加した学生にとっても筆者にとってもたいへん実りある海外巡検であったと思う。なお、巡検からわずか２か月後の2019年４月15日に、パリのノートルダム寺院で大規模な火災が発生し、尖塔と屋根の半分以上が焼失した。このニュースに接した際、巡検に参加した学生ともども何とも言えない複雑な気持ちになったことを記しておく。